

## 2014年度外国人留学生入学試験「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験(芸術学科は小論文)	面接	
	狙い・意図	狙い・意図	専門試験 作品 利用
日本画	与えられたモチーフに対して、個々が持つ本質的な感性を観ることがねらいである。独自の視点、描写力、色彩感覚、観察力、創造力を求めた。	《作品提出：30号以上2点、その他ポートフォリオなど》 実技作品を踏まえ、制作意図を語らせるとともに、提出作品と多摩美術大学への志望理由・小論文を参考に総合的に判断した。	●
油画	タンクトップ、短パンを着た女性モデルが木製の各材を持ち椅子に座っている。この服装である人体そのもの骨格も見やすく、それらを捉える総合的な表現力をよりストレートに見ることができると考えた。又、木製の各材を手に持たせたのは、もとと人体の関係性を描くことができるかを見極めるためである。「見ること」「描くこと」といったもっとも基本的な部分に表われる各々の独自性、創造性を作品から感じとりたと思った。	まず表現すること、制作することへの意欲を強くもっているか。なぜ留学を希望し、その場として本学を選んだのか、又、学生生活において日本語でのコミュニケーションは十分とれるだろうか。このような点について面接、小論文、実技試験の作品から総合的に判断した。	●
版画	—	—	—
彫刻	—	—	—
工芸	形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写力を確認する。また、鉛筆デッサンといえども、対象に向き合う際の作者の感動が伝わってくるような画面の雰囲気や表現力も期待する。	なぜ本学工芸学科を選んだのか。そして何を学びたいのか。将来の展望などについて熱意と説得力のある答えを望む。実技試験を経た感想を話してもらうことで、本人の制作についての考えや取り組み方を再確認したい。面接の受け答えと小論文において、本学での学業を達成するために必要な日本語の能力を確認する。	●
グラフィックデザイン	鉛筆デッサン ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の目的や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか	面接 ・日本語での日常会話が行えるか ・専門分野の基礎的な用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
プロダクトデザイン	・理解力＝問題の把握、理解が適切か ・発想力＝アイデアが優れているか ・独創性＝他にないアイデアか ・実現力＝アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力＝アイデアが伝わる表現か	・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な基礎的な観察力と描写力、及び色彩表現力を問うことをねらいとして、ガラスの水差しと植物(シキミアグリーン)をモチーフにして出題した。設問を正しく理解しているかどうか、正確な観察と独創的且つ調和的な構成が美しくいていねいできているかを採点のポイントとした。	ひとつは、授業についていくことが出来る十分な日本語力と造形力を有しているかどうかを問うために、もうひとつは、テキスタイルデザインを学ぶための意志や志願の動機を明確に説明できるかどうかを問うことをねらいとして面接試験を実施した。	●
環境デザイン	環境デザインを学ぶ上で最低限必要な基礎的な造形力、および基礎的なデッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。	本学科の授業を理解できるだけの日本語会話能力があるか。日本で、また多摩美術大学で学びたい理由がはっきりしているか、本学科で環境デザインを学ぶ意欲、目的意識がはっきりしているか。	×
情報デザイン メディア芸術コース	2020年に開催されるオリンピックの新しいキーイメージを表現出題した。意図としては純粋思考を求めめる抽象的な思考ではなく、あえて現実性のあるテーマに対して理解力、洞察力を求め、未来に対して具体的に提案できる表現力を審査のねらいとした。	入学に対する意欲と、本人の目指している表現内容が本コースの授業内容と合致するかを面接試験のポイントとした。 日本語の質問に対して、正しい日本語で返答できるか？入学後の実習の授業などで教員との質疑応答に対応できるか？も質問事項の中で重要視された。	×
情報デザイン 情報デザインコース	具体的な「大切にしたいもの」を用いて、目には見えない「現在のあなた」を表現する課題です。かたちがないものの視覚化にどうアプローチしたかを問う設問になっています。採点のポイントは、発見・構成・表現の3つです。モチーフを「発見」して的確に表現に結びつけたか、それらを与えられた条件の中でどのように「構成」したか、自分の意図やメッセージを的確に「表現」できているかを評価しました。	作品またはポートフォリオのプレゼンテーションや質疑応答を通じて、留学の意図や目標が明確かどうか、デザインに関する興味や基礎的な知識があるか、基本的な表現技術が身に付いているか、学科・コースの教育内容を理解しているか、日本語での基礎的なコミュニケーション能力があるかなどを問い、総合的に評価しました。小論文は質問内容の参考としました。	×
芸術	日本語の習熟度だけでなく、思考力をみます。論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、という点も判断基準となります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	外国人留学生の存在は他の学生にとっても大きな刺激となります。面接試験では、直接本人と会って、日本語能力が十分であるか、芸術に関する最低限の基礎知識をもっているか、などを判定します。	×
統合デザイン	・理解力＝問題の把握・理解が正しいか ・観察力＝日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力＝イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力＝構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視点＝対象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか。	・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	・自らの身体に対してどの程度意識を持っているか ・即興的表現についての適性 ・テキストを用いてのセリフ表現のスキル 以上、3点をもって、入学後の可能性を審査しました。	・留学の動機の本質 ・入学後の日本語能力の向上についての本人の考え 以上、2点について面接し判断しました。	×
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザインコース	鉛筆デッサンは、4種類の質感の異なるモチーフを与えます。それらを想定で組み上げることによって空間構成力を、モチーフの異なる質感を描き分ける観察力と表現力を、光をとらえて陰影を劇的に描写できる感性があるかを探ります。	・日本語会話能力 ・学科の特色を理解しているか ・協調性があるか ・授業への熱意と適応力があるか ・作品の説明が的確であるか	●

## 全学科共通小論文

- 1、「母国と日本の架け橋」という題で、あなたの留学の目的と夢を800字程度の文章で書きなさい。
- 2、出題のねらい・意図：留学の目的と課題意識を明確に抱いているか。
- 3、採点のポイント：正しい日本語が書けているか。何を学びたいか、論理的に且つ具体的に書かれているか。